

兒童心理學 第一講

親と子の問題 (一)

はしがき

今度兒童心理學に就いて講座風に書く様にとの依頼を受けましたが、數年前にも二十數回に亘つて同様の問題について執筆しましたので、古い讀者の方は御存知の事と思ひます。前の時には出来るだけ廣く色々な問題に觸れ廣く淺くと言ふ傾向をとりましたので、今回はそれを補ふ意味で寧ろ狭いが深く子供の心を掘下げてみたいと思ひます。従つて兒童心理學概論としては取殘される問題や項目が出来ると思ひますが、それは前回のものとか、他の兒童心理學書を見ていたとき度い。今回の講義は兒童心理學の入門と言ふより一段高い程度のものにしたいと思ひます。

環境

遺傳と環境の問題、即ち人間の身心の生活に、遺傳と環境とどちらの方が大きな影響を與へるかこの問題は學問的に

牛 島 義 友

は興味のある問題ではあるが、直接子供の教育の任に當つて居る教育者には大した問題ではない。どちらでもよいと言ふのではなく環境を主にして考へ教育してゆかねばならぬ問題である。

若し人の性質や業績が凡て遺傳によつて決定されるものとしたら教育者の努力は無になり、生れて來た子供の教育に努めるよりも、生れる前の配慮即ち良質の子孫のみ生れ、惡質のものは生れない様な優生的處置さへこつてをけばよい事になる。併し實際は人の性質や其人がやり遂げる業績は遺傳や素質のみによるものでなく教育的感化力も大である。又假に遺傳的素質的に劣つた低能等や不良少年があつたとしても教育者はそれを運命と諦めて放置してをい

てよい譯ではなく、少しでも生活能力が増す様に、少しでも改善する様に最大の努力をしなければならぬ。

かく教育者としては、遺傳よりも環境を重視す可きである。遺傳的素質は教育の參考にするに留む可きである。自分に委ねられた子供が優秀者が劣等者かをはつきり知つて居る事は必要である。併し優秀者だから將來に大きな期待をかけて教育に張切つたり、劣等者だから失望して教育的努力を投げてしまつてはいけぬ。如何なる素質の者でも能力相應に仕事をして國家に奉公し、自分でも幸福な生活が送れる様に指導してやらねばならぬ。

故に茲では教育的感化影響に就いて考へてゆき度いと思ふが、教師の教育と言ふ狭い教育ではなく、廣い環境の感化力について考へてみたい。即ち家庭的環境と農村都市等の自然社會環境について説くことにしよう。

親と子の問題

先づ家庭の環境の中でも最も大きな影響を持つて居る親の子供に對する影響、親子關係から考へる。

實父母が居なかつたり片親の場合は子供に大きな影響を與へる言はれてをる。勿論繼父母や、片親や、養子等の場合には夫々深刻な問題が発生する。併し人々は兩親健在の場合にも問題が澤山ある事を忘れ勝ちである。故に茲では先づ兩親揃つて居る場合の問題を考へ次に片親と繼母

の問題を考へよう。

I 兩親が揃つて居ても起る問題

A 溺愛

兩親が健在であり而も子供に愛を注いで居れば子供の精神は健全に育つと考へられて居る。併し廣く社會を見渡して兩親が子供を非常に愛し乍ら子供が親から離反したり、或は何時まで子供つばくても如何にも弱々しい獨立性の無い子供を持つて困つて居る家庭も澤山ある。子供を正しく愛する事は案外に六ヶ敷い事である。盲目的な愛情、溺度に心しなければならぬ。愛情を持たない親と言ふものは考へられない。實子であるならば如何に出來な子供に對しても、否不良ならば却つて益々親の強い愛情が沸いて來る。従つて親に向つて子供を愛せよと説教するのは凡そ無意味な事である。寧ろ子供を盲目的に愛するな、溺愛するなと忠告す可きである。斯る警告は實は米國の精神衛生學者達から發せられてをるのも不思議な事である。子供を熱愛するのは我邦の美風であり、外國では子供を早くから放任し、自由にさせて居ると考へられて居るが、此個人主義の本家である米國に子供を溺愛して子供をスポイルし、駄目にしてしまふ例が澤山あるのである。従つて日本の親達は一層子供への溺愛をつゝしみ、賢母の譽を勝ち得なければならぬ。

家庭が子供に對して持つ機能は第一は保護であり、第二は子供の成長完成である。子供を溺愛する場合は第一の保護は完全以上に行はれるが、第二の成長、完成が妨げられる。何時までも親に依頼した非獨立的な子供となり、社會人として必要な諸性質や性能が形成されなくなる。親の愛は常に盲目的な庇護ではなく、自律、獨立性を損はない様に高處から指導しなければならぬ。何もかも親が手助けしてやる子供は何時までも親に頼つてくる。幼児教育の第一の原理は自立の習慣を作る事であると言はれて居る。自分で食事をし、着物を着、一人で寢付き、一人で用便の始末をする様に躡ける事が幼児前期の教育原理である。少しく大きくなれば一人で幼稚園に行き、親が付いて居なくとも友達と遊ぶ事が出来、國民學校に入れば一人で勉強をし、青年期になれば自分の判斷で行爲し、親から離れても無暗にホーム・シック等に悩む事なく勉強出来、社會に出ては早く經濟的に獨立し、結婚してからは何時までも實家や里の親に頼らない者となりねばならない。斯る自立をさせる爲には親は無用な手助けを止めねばならない。子供が稚い程、或は子供が虚弱であつたり、精神的に遅れてゐる親は一層いさほしむで家の子供はまだ赤坊だからと言つて何でも面倒を見、手助けしてしまふ。其爲に弱い子供程益々自立が困難になる。日本に昔からの諺に「可愛い

子には旅させよ」とあるが、親の膝下から離して、自分一人で自分の處置をさせる事は絶対に必要な事である。ホリングワースは之に心理的離乳と言ふ巧い言葉を用ひて居る。乳兒は自分の成長の爲には一定の時が來れば離乳しなければいけない。何時までも母乳を哺つて居るを營養不良になる。同様に何時までも親に頼つて居るを獨立した社會人になれない。適當な時期に心理的に離乳しなければならぬ。此時期は青年期ではあるが、其準備は既に幼児期から徐々に自立の習慣を通してなされて居なければならぬ。

次に此自立を妨げる親の溺愛的態度は如何にして發生するのであらうか。之に對してセイルス(Saunders)女史は思ひ切つた事を言つて居る、即ち溺愛する説の大部分は其の夫婦生活に缺陷がある。自分の接した「問題の親」の原因は結婚の失望以外のものはなかつたと言つて居る。妻の方から言へば夫の愛情に失望したために夫の代りに子供に凡ての愛情を希望をかけ其結果盲目的愛情に落入つて居る。故に子供を矢鱈に愛するのは美しい愛情の發露の様ではあるが、其裏には愛情の危機が潜んで居るから注意しなければならぬ警告して居る。破女(破女)のあげてゐる例を示さう。

満四歳の子供の母、絶えず子供の世話をやき食事、着衣、入浴に際し何から何まで母親が手を貸すので自分一人では

何も出来ない。又子供の面前で子供をほめたり、子供が喧嘩すれば直ぐ加勢に行く始末。此母親は其夫に不満を懐いて居り、夫は夜遊びしたり賭博に耽つて困るまごぼして居る。又此妻は自分の里の母親にひきく頼り、里の近くに住居して居り、夫の家よりも自分の里の方が優れてゐる事を兎角鼻にかけて居り、「子供が巧くゆかないのは全く夫のせいですよ」と言つて居る。斯る夫への失望から子への溺愛に落入つたのである。

十七貫もある息の母。萬事母に頼つて居り、學校のキャンプに行つてもホーム・シックの爲に途中から逃出して來る様な息であるが、此親の結婚生活を調べてみるに愛による結婚ではなく、妻には以前に愛人があつたが、他の女と結婚してしまつたのでやむなく今の夫と結婚した。併しその夫が教育も智能も自分より劣つてゐるので不満で、ひたすら息に自分の心の慰を感じて居る。

斯る夫婦生活の不満は妻の例にのみある譯ではない。或教養ある實業家の例であるが、心から愛してゐた愛人には宗教關係から結婚する事が出来なかつたので左程愛しても居なかつた今の妻と結婚した。妻はひたすら夫に頼り、夫を愛せんぞしたが、夫の愛は兩者の間に生れた娘の方に集中してゐる。其爲に妻は娘に對して激しい嫉妬すら感じて居る。次に男の子が生れたが當然の結果として妻はこの息

に愛を集中し、父が娘を愛すれば自分は負けずに息を愛し、兩者が競合ふ様な形になつた。斯る状態で十三年間經過した爲に此娘は完全にスポイルされた手に負へない子供になつてしまつた。

B 過度な期待 子供が學校で良い成績をさらぬ時には親を失望させるが、此失望が又子供に大きな影響を與へる。此場合に二つの型がある。一つは親が有能で社會的地位もある場合である。「斯んなに出来ない子供は私の家族にも親類にも居りません」と訴へる紳士がよくある。特に兄弟の一方は親を満足させる様なよい成績を示すが他の方が親の期待するだけの成績を示さない場合に悲劇が起る。

或成功した實業家の例ではあるが、彼は大學も出てをり名譽職にもついてゐる人であり、妻も立派な教養ある女である。處が其息が中學を落第したばかりに非常に不名譽に思ひ、今にも一家の中に大きな不幸が臨む様に考へて心配し、子供に愛想をつかして努めて子供を家から遠去け様とし、學校を止めて實業に就かさうとして居た。

此息は無論優秀ではないが、家門の恥として冷遇する程の者でないのに親の誇りの爲に犠牲にならうとして居る。斯る親の態度は子供に大きな失望、劣等感を起す事になる。次は大學を出た賢い母親の例。娘の成績が悪いと言ふのでひきく叱り、自分の學校時代の成績をあげて訓戒した。

此娘は元來素質は悪くなく、智能検査をするに其結果は寧ろ優秀でさへある。それなのに母の叱責の爲に却つて成績が上らず、特に母が學生時代によく出来たに自慢した學科を嫌つて勉強しない。従つて又學校生活も面白くなくなり、ふさぎ勝て、死んでしまふか等言ふので母親が心配して相談所に訪ねて來た次第である。

斯の様に子供自身に責任があると言ふよりも、親の考方が餘りに高過ぎる爲に子供を不幸にする事もある。

過度の期待の第二の型は親自身が不遇であつてひたすら子供に期待をかけて居る場合で、此方が一層深刻である。

幼児から農園で働かされて教育を受けなかつた父親、此父親は毎日勤勉に仕事をして居るが一向にうだつが上らず下積の生活をして不遇をかこつて居るが、之は自分が教育が無いばかりに斯くなつたのだと思ひ込んで居る。だからせめて息にだけは充分教育してやらうと張切つて居る。息は小學校の頃はさうかこうかの成績を示して居たが、中學校に入つてから成績がかんばしくない。もう學校に行くのは厭だに父親に言つた。處が父親はひさく叱り鞭撻した。子供は仕方なしに學校に行くが學年末には遂に落第まなつた。併し父の怒を怖れて成績をこまかして報告したりした。併し非常に氣になるので、若し自分が學業を續けないならばお父さんはさうなさる心算か尋ねてみた、處が父は怒

つて、そんな時には追出してしまふと言つた。其爲に子供は自分の落第を正直につげる事も出来ず、思ひ餘つて遂に家出をしてしまつた。

C 所謂教育的態度 教育のある親で、一家の見識を持ち、自分の理想に従つて子供を躱け教育しようとする親から案外に困つた子供が出て來る事がある。

或嚴格な宗教的な家庭に育つた母親、彼女は、自分が育てられた通りに自分の子供を育て上げ様と一生懸命である。自分達の子供の頃は斯んな遊びはしなかつた、映畫は見なかつた、間食はしなかつたに嚴しかつた想ひ出を持つて居り、又育児の本等も色々讀んで子供を嚴しく躱けた、併し子供は十三の頃になるに嘘をついたり、金を持出したり、學校を怠けたり、母が叱るに逆つたりして始末がつかなくなつた。

所謂教育的な態度、嚴格一點張の態度、子に適當な自由を許し、廣い立場から眺め、溫い愛情が躱の中になじんで居ない様な親の態度も又困つた問題である。

以上の溺愛まか子供への期待まか教育性は皆それ自體にしては悪いものではなく親の子供に對する本能的愛情の發露でもある。然し此の善意に基付いた愛情なるが故に自分の態度を反省する事が少く、誤つた態度を續けて遂に子供を誤まらしてしまふのである。